

昭和七年法律第二十号

手形法

第一編 為替手形

第一章 為替手形ノ振出及方式

第一条 為替手形ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 証券ノ文言中ニ其ノ証券ノ作成ニ用フル語ヲ以テ記載スル為替手形ナルコトヲ示ス文字
- 二 一定ノ金額ヲ支払フベキ旨ノ單純ナル委託
- 三 支払ヲ為スベキ者(支払人)ノ名称

四 満期ノ表示

五 支払ヲ為スベキ地ノ表示

六 支払ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者ヲ指図スル者ノ名称

七 手形ヲ振出ス日及地ノ表示

八 手形ヲ振出ス者(振出人)ノ署名

第二条 前条ニ掲グル事項ノ何レカヲ欠ク証券ハ為替手形タル効力ヲ有セズ但シ次ノ數項ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

満期ノ記載ナキ為替手形ハ之ヲ一覽私ノモノト看做ス

支払人ノ名称ニ附記シタル地ハ特別ノ表示ナキ限り之ヲ支払地ニシテ且支払人ノ住所タルモノト看做ス

振出地ノ記載ナキ為替手形ハ振出人ノ名称ニ附記シタル地ニ於テ之ヲ振出シタルモノト看做ス

第三条 為替手形ハ振出人ノ自己指図ニテ之ヲ振出スコトヲ得

為替手形ハ振出人ノ自己宛ニテ之ヲ振出スコトヲ得

第四条 為替手形ハ第三者ノ計算ニ於テ之ヲ振出スコトヲ得

為替手形ハ第三者ノ住所ニ在ルト又ハ其ノ他ノ地ニ在ルトヲ問ハズ第三者ノ住所ニ於テ支払フベキモノト為スコトヲ得

第五条 一覽私又ハ一覽後定期私ノ為替手形ニ於テハ振出人ハ手形金額ニ付利息ヲ生ズベキ旨ノ約定ヲ記載スルコトヲ得其ノ他ノ為替手形ニ於テハ此ノ約定ノ記載ハ之ヲ為サザルモノト看做ス

利率ハ之ヲ手形ニ表示スルコトヲ要ス其ノ表示ナキトキハ利息ノ約定ノ記載ハ之ヲ為サザルモノト看做ス

第六条 為替手形ノ日附ノ表示ナキトキハ手形振出ノ日ヨリ發生ス

利息ハ別段ノ日附ヲ文字及數字ヲ以テ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ文字ヲ以テ記載シタル金額ヲ手形金額トス

第七条 為替手形ノ金額ヲ文字ヲ以テ又ハ數字ヲ以テ重複シテ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ最小金額ヲ手形金額トス

第八条 為替手形ニ手形債務ノ負担ニ付キ行爲能力ナキ者ノ署名、偽造ノ署名、仮設人ノ署名又ハ其ノ事由ニ因リ為替手形ノ署名者若ハ其ノ本人ニ義務ヲ負ハシムルコト能ハザル署名アル場合ト雖モ他ノ署名者ノ債務ハ之ヲ爲其ノ効力ヲ妨ゲラルルコトナシ

第九条 代理權ヲ有セザル者ガ代理人トシテ為替手形ニ署名シタルトキハ自ら其ノ手形ニ因リ義務ヲ負フ其ノ者ガ支払ヲ為シタルトキハ本人ト同一ノ權利ヲ有ス權限ヲ超エタル代理人ニ付亦同ジ

第十条 振出人ハ引受及支払ヲ担保ス

振出人ハ引受ヲ担保セザル旨ヲ記載スルコトヲ得支払ヲ担保セザル旨ノ一切ノ文言ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

第十一条 未完成ニテ振出シタル為替手形ニ予メ為シタル合意ト異ル補充ヲ為シタル場合ニ於テハ其ノ違反ハ之ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ悪意又ハ重大ナル過失ニ因リ為替手形ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二章 裏書

第十二条 為替手形ハ指図式ニテ振出サザルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

振出人ガ為替手形ニ「指図禁止」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シタルトキハ其ノ証券ハ民法(明治二十九年法律第八十九号)第三編第一章第四節ノ規定ニ依ル債權ノ讓渡ニ關スル方式ニ從ヒ且其ノ効力ヲ以テノミ之ヲ讓渡スコトヲ得

第十三条 裏書ハ引受ヲ為シタル又ハ為サザル支払人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シテモ之ヲ為スコトヲ得此等ノ者ハ更ニ手形ヲ裏書スルコトヲ得

裏書ハ單純ナルコトヲ要ス裏書ニ附シタル条件ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

第十四条 裏書ハ之ヲ無効トス

持參人私ノ裏書ハ白地式裏書ト同一ノ効力ヲ有ス

第十五条 裏書ハ為替手形又ハ之ト結合シタル紙片(補箋)ニ之ヲ記載シ裏書人署名スルコトヲ要ス

裏書ハ被裏書人ヲ指定セズシテ之ヲ為シ又ハ単ニ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ為スコトヲ得(白地式裏書)此ノ後ノ場合ニ於テハ裏書ハ為替手形ノ裏面又ハ補箋ニ之ヲ為スニ非ザレバ其ノ効力ヲ有セズ

第十六条 裏書ハ為替手形ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ移転ス

裏書ガ白地式ナルトキハ所持人ハ

一 自己ノ名称又ハ他人ノ名称ヲ以テ白地ヲ補充スルコトヲ得

二 白地式ニ依リ又ハ他人ヲ表示シテ更ニ手形ヲ裏書スルコトヲ得
三 白地ヲ補充セズ且裏書ヲ為サズシテ手形ヲ第三者ニ讓渡スルコトヲ得
第十五条 裏書人ハ反對ノ文言ナキ限り引受及支払ヲ担保ス

裏書人ハ新ナル裏書ヲ禁ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ裏書人ハ手形ノ爾後ノ被裏書人ニ對シ担保ノ責ヲ負フコトナシ
第十六条 為替手形ノ占有者ガ裏書ノ連続ニ依リ其ノ權利ヲ証明スルトキハ之ヲ適法ノ所持人ト看做ス最後ノ裏書ガ白地式ナル場合ト雖モ亦同ジ抹消シタル裏書ハ此ノ關係ニ於テハ之ヲ記載セザルモノト看做ス白地式裏書ニ次デ他ノ裏書アルトキハ其ノ裏書ヲ為シタル者ハ白地式裏書ニ因リテ手形ヲ取得シタルモノト看做ス
事由ノ何タルヲ問ハズ為替手形ノ占有ヲ失ヒタル者アル場合ニ於テ所持人ガ前項ノ規定ニ依リ其ノ權利ヲ証明スルトキハ手形ヲ返還スル義務ヲ負フコトナシ但シ所持人ガ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十七条 為替手形ニ依リ請求ヲ受ケタル者ハ振出人其ノ所持人ノ前者ニ對スル人の關係ニ基ク抗弁ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ其ノ債務者ヲ害スルコトヲ知リテ手形ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
第十八条 裏書ニ「回収ノ為」、「取立ノ為」、「代理ノ為」其ノ他單ナル委任ヲ示ス文言アルトキハ所持人ハ為替手形ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ行使スルコトヲ得但シ所持人ハ代理ノ為ノ裏書ノミヲ為スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ債務者ガ所持人ニ對抗スルコトヲ得ル抗弁ハ裏書人ニ對抗スルコトヲ得ベカリシモノニ限ル
代理ノ為ノ裏書ニ依ル委任ハ委任者ノ死亡又ハ其ノ者ガ行為能力ノ制限ヲ受ケタルコトニ因リ終了セズ
第十九条 裏書ニ「担保ノ為」、「質入ノ為」其ノ他質權ノ設定ヲ示ス文言アルトキハ所持人ハ為替手形ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ行使スルコトヲ得但シ所持人ノ為シタル裏書ハ代理ノ為ノ裏書トシテノ効力ノミヲ有ス

債務者ハ裏書人ニ對スル人の關係ニ基ク抗弁ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ其ノ債務者ヲ害スルコトヲ知リテ手形ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
第二十条 満期後ノ裏書ハ満期前ノ裏書ト同一ノ効力ヲ有ス但シ支払拒絶証書作成後ノ裏書又ハ支払拒絶証書作成期間經過後ノ裏書ハ民法第三編第一章第四節ノ規定ニ依ル債權ノ讓渡ノ効力ノミヲ有ス
日附ノ記載ナキ裏書ハ支払拒絶証書作成期間經過前ニ之ヲ為シタルモノト推定ス

第三章 引受
第二十一条 為替手形ノ所持人又ハ單ナル占有者ハ満期ニ至ル迄引受ノ為支払人ニ其ノ住所ニ於テ之ヲ呈示スルコトヲ得
第二十二条 振出人ハ為替手形ニ期間ヲ定メ又ハ定メズシテ引受ノ為之ヲ呈示スベキ旨ヲ記載スルコトヲ得
振出人ハ手形ニ引受ノ為ノ呈示ヲ禁ズル旨ヲ記載スルコトヲ得但シ手形ガ第三者方ニテ若ハ支払人ノ住所ニ非ザル地ニ於テ支払フベキモノナルトキ又ハ一覽後定期払ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ
振出人ハ一定期日前ニハ引受ノ為ノ呈示ヲ為スベカラザル旨ヲ記載スルコトヲ得
各裏書人ハ期間ヲ定メ又ハ定メズシテ引受ノ為手形ヲ呈示スベキ旨ヲ記載スルコトヲ得但シ振出人ガ引受ノ為ノ呈示ヲ禁ズタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三条 一覽後定期払ノ為替手形ハ其ノ日附ヨリ一年内ニ引受ノ為之ヲ呈示スルコトヲ要ス
振出人ハ前項ノ期間ヲ短縮シ又ハ伸長スルコトヲ得
裏書人ハ前二項ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得
第二十四条 支払人ハ第一ノ呈示ノ翌日ニ第二ノ呈示ヲ為スベキコトヲ請求スルコトヲ得利害關係人ハ此ノ請求ガ拒絶証書ニ記載セラレタルトキニ限り之ニ応ズル呈示ナカリシコトヲ主張スルコトヲ得

所持人ハ引受ノ為ニ呈示シタル手形ヲ支払人ニ交付スルコトヲ要セズ
第二十五条 引受ハ為替手形ニ之ヲ記載スベシ引受ハ「引受」其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ以テ表示シ支払人署名スベシ手形ノ表面ニ為シタル支払人ノ單ナル署名ハ之ヲ引受ト看做ス
一覽後定期払ノ手形又ハ特別ノ記載ニ從ヒ一定ノ期間内ニ引受ノ為ノ呈示ヲ為スベキ手形ニ於テハ所持人ガ呈示ノ日ノ日附ヲ記載スベキコトヲ請求シタル場合ヲ除クノ外引受ニハ之ヲ為シタル日ノ日附ヲ記載スルコトヲ要ス日附ノ記載ナキトキハ所持人ノ裏書人及振出人ニ對スル遡求權ヲ保全スル為ニハ適法ノ時期ニ作ラシメタル拒絶証書ニ依リ其ノ記載ナカリシコトヲ証スルコトヲ要ス

第二十六条 引受ハ單純ナルベシ但シ支払人ハ之ヲ手形金額ノ一部ニ制限スルコトヲ得
第二十七条 振出人ガ支払人ノ住所ト異ル支払地ヲ為替手形ニ記載シタル場合ニ於テ第三者方ニテ支払ヲ為スベキ旨ヲ定メザリシトキハ支払人ハ引受ヲ為スニ當リ其ノ第三者ヲ定ムルコトヲ得之ヲ定メザリシトキハ引受人ハ支払地ニ於テ自ら支払ヲ為ス義務ヲ負ヒタルモノト看做ス
手形ガ支払人ノ住所ニ於テ支払フベキモノナルトキハ支払人ハ引受ニ於テ支払地ニ於ケル支払ノ場所ヲ定ムルコトヲ得

第二十八条 支払人ハ引受ニ因リ満期ニ於テ為替手形ノ支払ヲ為ス義務ヲ負フ
支払ナキ場合ニ於テハ所持人ハ第四十八条及第四十九条ノ規定ニ依リテ請求スルコトヲ得ベキ一切ノ金額ニ付引受人ニ對シ為替手形ヨリ生ズル直接ノ請求權ヲ有ス所持人ガ振出人ナルトキト雖モ亦同ジ

第二十九条 為替手形ニ引受ヲ記載シタル支払人ガ其ノ手形ノ返還前ニ之ヲ抹消シタルトキハ引受ヲ拒ミタルモノト看做ス抹消ハ証券ノ返還前ニ之ヲ為シタルモノト推定ス
前項ノ規定ニ拘ラズ支払人ガ書面ヲ以テ所持人又ハ手形ニ署名シタル者ニ引受ノ通知ヲ為シタルトキハ此等ノ者ニ對シ引受ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第四章 保証
第三十条 為替手形ノ支払ハ其ノ金額ノ全部又ハ一部ニ付保証ニ依リテ之ヲ担保スルコトヲ得

第三者ハ前項ノ保証ヲ為スコトヲ得手形ニ署名シタル者ト雖モ亦同ジ

第三十一条

保証ハ「保証」其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ以テ表示シ保証人署名スベシ

為替手形ノ表面ニ為シタル単ナル署名ハ之ヲ保証ト看做ス但シ支払人又ハ振出人ノ署名ハ此ノ限ニ在ラズ

保証ニハ何人ノ為ニ之ヲ為スカヲ表示スルコトヲ要ス其ノ表示ナキトキハ振出人ノ為ニ之ヲ為シタルモノト看做ス

第三十二条

保証人ハ保証セラレタル者ト同一ノ責任ヲ負フ

保証ハ其ノ担保シタル債務ガ方式ノ瑕疵ヲ除キ他ノ如何ナル事由ニ因リテ無効ナルトキト雖モ之ヲ有効トス

第五章 満期

第三十三条 為替手形ハ左ノ何レカトシテ之ヲ振出スコトヲ得

- 一 一覽払
- 二 日附後定期払
- 三 確定日払
- 四 前項ト異ル満期又ハ分割払ノ為替手形ハ之ヲ無効トス

第三十四条 一覽払ノ為替手形ハ呈示アリタルトキ之ヲ支払フベキモノトス此ノ手形ハ其ノ日附ヨリ一年内ニ支払ノ為之ヲ呈示スルコトヲ要ス振出人ハ此ノ期間ヲ短縮シ又ハ伸長スルコトヲ得裏書

人ハ此等ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第三十五条

一覽後定期払ノ為替手形ノ満期ハ引受ノ日附又ハ拒絕証書ノ日附ニ依リテ之ヲ定ム

第三十六条

日附後又ハ一覽後一月又ハ數月半払ノ為替手形ハ先ヅ全月ヲ計算ス

日附後又ハ一覽後一月又ハ數月半払ノ為替手形ニ付テハ先ヅ全月ヲ計算ス

月ノ始、月ノ央(一月ノ央、二月ノ央等)又ハ月ノ終ヲ以テ満期ヲ定メタルトキハ其ノ月ノ一日、十五日又ハ末日ヲ謂フ

「八日」又ハ「十五日」トハ一週又ハ二週ニ非ズシテ満八日又ハ満十五日ヲ謂フ

第三十七条

振出地ト曆ヲ異ニスル地ニ於テ確定日ニ支払フベキ為替手形ニ付テハ満期ノ日ハ支払地ノ曆ニ依リテ之ヲ定メタルモノト看做ス

曆ヲ異ニスル地ノ間ニ振出シタル為替手形ガ日附後定期払ナルトキハ振出ノ日ヲ支払地ノ曆ノ応当日ニ換ヘ之ニ依リテ満期ヲ定ム

第六章 支払

第三十八条

確定日払、日附後定期払又ハ一覽後定期払ノ為替手形ノ所持人ハ支払ヲ為スベキ日又ハ之ニ次グ二取引日内ニ支払ノ為手形ヲ呈示スルコトヲ要ス

第三十九条

為替手形ノ支払人ハ支払ヲ為スニ当リ所持人ニ対シ手形ニ受取ヲ証スル記載ヲ為シテ之ヲ交付スベキコトヲ請求スルコトヲ得

第四十条

一部支払ノ場合ニ於テハ支払人ハ其ノ支払アリタル旨ノ手形上ノ記載及受取証書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第四十一条

満期ニ於テ支払ヲ為ス者ハ悪意又ハ重大ナル過失ナキ限り其ノ責ヲ免ル此ノ者ハ裏書ノ連続ノ整否ヲ調査スル義務アルモ裏書人ノ署名ヲ調査スル義務ナシ

第四十二条

持人ハ其ノ選択ニ依リ満期ノ日又ハ支払ノ日ノ相場ニ從ヒ其ノ國ノ通貨ヲ以テ為替手形ノ金額ヲ支払フベキコトヲ請求スルコトヲ得

第四十三条

引受拒絶又ハ支払拒絶ニ因ル遡求

第四十四条

満期ニ於テ支払ナキトキハ所持人ハ裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ対シ其ノ遡求權ヲ行フコトヲ得左ノ場合ニ於テハ満期前ト雖モ亦同ジ

一 引受ノ全部又ハ一部ノ拒絶アリタルトキ

二 引受ヲ為シタル若ハ為サザル支払人ガ破産手続開始ノ決定ヲ受ケタル場合、其ノ支払停止ノ場合又ハ其ノ財産ニ対スル強制執行ガ効ヲ奏セザル場合
 三 引受ヲ為シタル若ハ為サザル支払人ガ破産手続開始ノ決定ヲ受ケタル場合
 第四十四條 引受又ハ支払ノ拒絶ハ公正証書（引受拒絶証書又ハ支払拒絶証書）ニ依リ之ヲ証明スルコトヲ要ス
 引受拒絶証書ハ引受ノ為ノ呈示期間内ニ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス第二十四條第一項ニ規定スル場合ニ於テ期間ノ末日ニ第一ノ呈示アリタルトキハ拒絶証書ハ其ノ翌日之ヲ作ラシムルコトヲ得
 確定日払、日附後定期払又ハ一覽後定期払ノ為替手形ノ支払拒絶証書ハ為替手形ノ支払ヲ為スベキ日又ハハ之ニ次グ二取引日内ニ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス一覽払ノ手形ノ支払拒絶証書ハ引受拒絶証書ノ作成ニ關シテ前項ニ規定スル条件ニ從ヒ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス
 引受拒絶証書アルトキハ支払ノ為ノ呈示及支払拒絶証書ヲ要セス
 引受ヲ為シタル若ハ為サザル支払人ガ支払ヲ停止シタル場合又ハ其ノ財産ニ対スル強制執行ガ効ヲ奏セザル場合ニ於テハ所持人ハ支払人ニ対シ手形ノ支払ノ為ノ呈示ヲ為シ且拒絶証書ヲ作ラシメタル後ニ非ザレバ其ノ遡求權ヲ行フコトヲ得ズ
 引受ヲ為シタル若ハ為サザル支払人ガ破産手続開始ノ決定ヲ受ケタル場合又ハ引受ノ為ノ呈示ヲ禁ジタル手形ノ振出人ガ破産手続開始ノ決定ヲ受ケタル場合ニ於テ所持人ガ其ノ遡求權ヲ行フニハ破産手続開始ノ決定ノ裁判書ヲ提出スルヲ以テ足ル

第四十五條 所持人ハ拒絶証書作成ノ日ニ次グ又ハ無費用償還文句アル場合ニ於テハ呈示ノ日ニ次グ四取引日内ニ自己ノ裏書人及振出人ニ対シ引受拒絶又ハ支払拒絶アリタルコトヲ通知スルコトヲ要ス各裏書人ハ通知ヲ受ケタル日ニ次グ二取引日内ニ前ノ通知者全員ノ名称及宛所ヲ示シ自己ノ受ケタル通知ヲ自己ノ裏書人ニ通知シ順次振出人ニ及ブモノトス此ノ期間ハ各其ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ進行ス
 前項ノ規定ニ從ヒ為替手形ノ署名者ニ通知ヲ為ストキハ同一期間内ニ其ノ保証人ニ同一ノ通知ヲ為スコトヲ要ス
 裏書人ガ其ノ宛所ヲ記載セズ又ハ其ノ記載ガ読ミ難キ場合ニ於テハ其ノ裏書人ノ直接ノ前者ニ通知スルヲ以テ足ル
 通知ヲ為スベキ者ハ如何ナル方法ニ依リテモ之ヲ為スコトヲ得單ニ為替手形ヲ返付スルニ依リテモ亦之ヲ為スコトヲ得
 通知ヲ為スベキ者ハ適法ノ期間内ニ通知ヲ為シタルコトヲ証明スルコトヲ要ス此ノ期間内ニ通知ヲ為ス書面ヲ郵便ニ付シ又ハ民間事業者による信書ノ送達に關する法律（平成十四年法律第九十九号）第二條第六項ニ規定スル一般信書便事業者若ハ同條第九項ニ規定スル特定信書便事業者ノ提供スル同條第二項ニ規定スル信書便ノ役務ヲ利用シテ發送シタル場合ニ於テハ其ノ期間ヲ遵守シタルモノト看做ス

第四十六條 振出人、裏書人又ハ保証人ハ証券ニ記載シ且署名シタル「無費用償還」、「拒絶証書不要」ノ文句其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ニ依リ所持人ニ対シ其ノ遡求權ヲ行フ為ノ引受拒絶証書又ハ支払拒絶証書ノ作成ヲ免除スルコトヲ得
 前項ノ文言ハ所持人ニ対シ法定期間内ニ於ケル為替手形ノ呈示及通知ノ義務ヲ免除スルコトナシ期間ノ不遵守ハ所持人ニ対シ之ヲ援用スル者ニ於テ其ノ証明ヲ為スコトヲ要ス
 振出人ガ第一項ノ文言ヲ記載シタルトキハ一切ノ署名者ニ対シ其ノ効力ヲ生ズ裏書人又ハ保証人ガ之ヲ記載シタルトキハ其ノ裏書人又ハ保証人ニ対シテノミ其ノ効力ヲ生ズ振出人ガ此ノ文言ヲ記載シタルトキハ所持人ガ拒絶証書ヲ作ラシメタルトキハ其ノ費用ハ所持人之ヲ負担ス裏書人又ハ保証人ガ此ノ文言ヲ記載シタル場合ニ於テ拒絶証書ノ作成アリタルトキハ一切ノ署名者ヲシテ其ノ費用ヲ償還セシムルコトヲ得

第四十七條 為替手形ノ振出、引受、裏書又ハ保証ヲ為シタル者ハ所持人ニ対シ合同シテ其ノ責ニ任ズ
 所持人ハ前項ノ債務者ニ対シ其ノ債務ヲ負ヒタル順序ニ拘ラズ各別又ハ共同ニ請求ヲ為スコトヲ得
 為替手形ノ署名者ニシテ之ヲ受戻シタルモノモ同一ノ權利ヲ有ス
 債務者ノ一人ニ対スル請求ハ他ノ債務者ニ対スル請求ヲ妨グズ既ニ請求ヲ受ケタル者ノ後者ニ対シテモ亦同ジ
 第四十八條 所持人ハ遡求ヲ受ケル者ニ対シ左ノ金額ヲ請求スルコトヲ得
 一 引受又ハ支払アラザリシ為替手形ノ金額及利息ノ記載アルトキハ其ノ利息
 二 法定利率（国内ニ於テ振出し且支払フベキ為替手形以外ノ為替手形ニ在リテハ年六分ノ率次條第二号ニ於テ同ジ）ニ依ル満期以後ノ利息
 三 拒絶証書ノ費用、通知ノ費用及其ノ他ノ費用
 満期前ニ遡求權ヲ行フトキハ割引ニ依リ手形金額ヲ減ズ其ノ割引ハ所持人ノ住所ニ於ケル遡求ノ日ノ公定割引率（銀行率）ニ依リ之ヲ計算ス

第四十九條 為替手形ヲ受戻シタル者ハ其ノ前者ニ対シ左ノ金額ヲ請求スルコトヲ得
 一 其ノ支払ヒタル總金額
 二 前号ノ金額ニ対シ法定利率ニ依リ計算シタル支払ノ日以後ノ利息
 三 其ノ支出シタル費用
 第五十條 遡求ヲ受ケタル又ハ受ケクベキ債務者ハ支払ト引換ニ拒絶証書、受取ヲ証スル記載ヲ為シタル計算書及為替手形ノ交付ヲ請求スルコトヲ得
 為替手形ヲ受戻シタル裏書人ハ自己及後者ノ裏書ヲ抹消スルコトヲ得
 第五十一條 一部引受ノ後ニ遡求權ヲ行フ場合ニ於テ引受アラザリシ手形金額ノ支払ヲ為ス者ハ其ノ支払ノ旨ヲ手形ニ記載スルコト及受取証書ヲ交付スルコトヲ得又所持人ハ爾後ノ遡求ヲ為スコトヲ得シムル為手形ノ証明簿本及拒絶証書ヲ交付スルコトヲ要ス

第五十二條 遡求權ヲ有スル者ハ反対ノ記載ナキ限り其ノ前者ノ一人ニ宛テ一覽払トシテ振出し且其ノ者ノ住所ニ於テ支払フベキ新し手形（戻手形）ニ依リ遡求ヲ為スコトヲ得
 戻手形ハ第四十八條及第四十九條ニ規定スル金額ノ外其ノ戻手形ノ仲立料及印紙稅ヲ含ム

所持人が戻手形ヲ振出ス場合ニ於テハ其ノ金額ハ本手形ノ支払地ヨリ前者ノ住所地ニ宛テ振出ス一覽払ノ為替手形ノ相場ニ依リ之ヲ定ム
ノ振出人ガ其ノ住所地ヨリ前者ノ住所地ニ宛テ振出ス一覽払手形ノ相場ニ依リ之ヲ定ム

第五十三条

左ノ期間ガ経過シタルトキハ所持人ハ裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ対シ其ノ権利ヲ失フ但シ引受人ニ対シテハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 一覽払又ハ一覽後定期払ノ為替手形ノ呈示期間
- 二 引受拒絶証書又ハ支払拒絶証書ノ作成期間
- 三 無費用償還文句アル場合ニ於ケル支払ノ為ノ呈示期間

振出人ノ記載シタル期間内ニ引受ノ為ノ呈示ヲ為サザルトキハ所持人ハ支払拒絶及引受拒絶ニ因ル遡求權ヲ失フ但シ其ノ記載ノ文言ニ依リ振出人ガ引受ノ担保義務ノミヲ免レントスル意思ヲ有シタルコトヲ知り得ベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

裏書ニ呈示期間ノ記載アルトキハ其ノ裏書人ニ限り之ヲ援用スルコトヲ得

第五十四条

法定ノ期間内ニ於ケル為替手形ノ呈示又ハ拒絶証書ノ作成ガ避クベカラザル障碍(国ノ法令ニ依ル禁制其ノ他ノ不可抗力)ニ因リテ妨ゲラレタルトキハ其ノ期間ヲ伸長ス
所持人ハ自己ノ裏書人ニ対シ遅滞ナク其ノ不可抗力ヲ通知シ且為替手形又ハ補箋ニ其ノ通知ヲ記載シ日附ヲ附シテ之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ他ニ付テハ第四十五条ノ規定ヲ準用ス
不可抗力ガ止ミタルトキハ所持人ハ遅滞ナク引受又ハ支払ノ為手形ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絶証書ヲ作ラシムルコトヲ要ス
不可抗力ガ満期ヨリ三十日ヲ超エテ継続スルトキハ呈示又ハ拒絶証書ノ作成ヲ要セスシテ遡求權ヲ行フコトヲ得

一覽払又ハ一覽後定期払ノ為替手形ニ付テハ三十日ノ期間ハ呈示期間ノ経過前ト雖モ所持人ガ其ノ裏書人ニ不可抗力ノ通知ヲ為シタル日ヨリ進行ス一覽後定期払ノ為替手形ニ付テハ三十日ノ期間ニ為替手形ニ記載シタル一覽後ノ期間ヲ加フ

所持人又ハ所持人ガ手形ノ呈示若ハ拒絶証書ノ作成ヲ委任シタル者ニ付テノ單純ナル人の事由ハ不可抗力ヲ構成スルモノト認メズ

第八章 参加

第一節 通則

第五十五条

振出人、裏書人又ハ保証人ハ予備支払人ヲ記載スルコトヲ得

為替手形ハ遡求ヲ受クベキ何レノ債務者ノ為ニ参加ヲ為ス者ニ於テモ本章ニ規定スル条件ニ從ヒ其ノ引受又ハ支払ヲ為スコトヲ得

参加人ハ第三者、支払人又ハ既に為替手形上ノ債務ヲ負フ者タルコトヲ得但シ引受人ハ此ノ限ニ在ラズ

参加人ハ其ノ被参加人ニ対シ二取引日内ニ其ノ参加ノ通知ヲ為スコトヲ要ス此ノ期間ノ不遵守ノ場合ニ於テ過失ニ因リテ生ジタル損害アルトキハ参加人ハ為替手形ノ金額ヲ超エザル範囲内ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任ズ

第二節 参加引受

第五十六条

参加引受ハ引受ノ為ノ呈示ヲ禁ゼザル為替手形ノ所持人ガ満期前ニ遡求權ヲ有スル一切ノ場合ニ於テ之ヲ為スコトヲ得

為替手形ニ支払地ニ於ケル予備支払人ヲ記載シタルトキハ手形ノ所持人ハ其ノ者ニ為替手形ヲ呈示シ且拒絶証書ニ依リ其ノ者ガ引受ヲ拒ミタルコトヲ証スルニ非ザレバ其ノ記載ヲ為シタル者及
其ノ後者ニ対シ満期前ニ遡求權ヲ行フコトヲ得ズ

参加ノ他ノ場合ニ於テハ所持人ハ参加引受ヲ拒ムコトヲ得若所持人ガ之ヲ受諾スルトキハ被参加人及其ノ後者ニ対シ満期前ニ有スル遡求權ヲ失フ

第五十七条

参加引受ハ為替手形ニ之ヲ記載シ参加人署名スベシ参加引受ニハ被参加人ヲ表示スベシ其ノ表示ナキトキハ振出人ノ為ニ之ヲ為シタルモノト看做ス

第五十八条

参加引受人ハ所持人及被参加人ヨリ後ノ裏書人ニ対シ被参加人ト同一ノ義務ヲ負フ
被参加人及其ノ前者ハ参加引受ニ拘ラズ所持人ニ対シ第四十八条ニ規定スル金額ノ支払ト引換ニ為替手形ノ交付ヲ請求スルコトヲ得拒絶証書及受取ヲ証スル記載ヲ為シタル計算書アルトキハ其ノ交付ヲモ請求スルコトヲ得

第三節 参加支払

第五十九条

参加支払ハ所持人ガ満期又ハ満期前ニ遡求權ヲ有スル一切ノ場合ニ於テ之ヲ為スコトヲ得

支払ハ被参加人ガ支払ヲ為スベキ金額ニ付之ヲ為スコトヲ要ス

第六十条

為替手形ガ支払地ニ住所ヲ有スル参加人ニ依リテ引受ケラレタルトキ又ハ支払地ニ住所ヲ有スル者ガ予備支払人トシテ記載セラレタルトキハ所持人ハ此等ノ者ノ全員ニ手形ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絶証書ヲ作ラシムルコトヲ得ベキ最後ノ日ノ翌日迄ニ支払拒絶証書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

前項ノ期間内ニ拒絶証書ノ作成ナキトキハ予備支払人ヲ記載シタル者又ハ被参加人及其ノ後ノ裏書人ハ義務ヲ免ル

第六十一条

参加支払ヲ拒ミタル所持人ハ其ノ支払ニ因リテ義務ヲ免ルベカリシ者ニ対スル遡求權ヲ失フ

第六十二条

参加支払ハ被参加人ヲ表示シテ為替手形ニ為シタル受取ノ記載ニ依リ之ヲ証スルコトヲ要ス其ノ表示ナキトキハ支払ハ振出人ノ為ニ之ヲ為シタルモノト看做ス
為替手形ハ参加支払人ニ之ヲ交付スルコトヲ要ス拒絶証書ヲ作ラシメタルトキハ之ヲモ交付スルコトヲ要ス

第六十三条

参加支払人ハ被参加人及其ノ者ノ為替手形上ノ債務者ニ対シ為替手形ヨリ生ズル権利ヲ取得ス但シ更ニ為替手形ヲ裏書スルコトヲ得ズ
被参加人ヨリ後ノ裏書人ハ義務ヲ免ル

参加支払ノ競合ノ場合ニ於テハ最も多数ノ義務ヲ免レシムルモノノ優先ス事情ヲ知り此ノ規定ニ反シテ参加シタル者ハ義務ヲ免ルベカリシ者ニ対スル遡求權ヲ失フ

第九章 複本及贖本

第一節 複本

第六十四條 為替手形ハ同一内容ノ数通ヲ以テ之ヲ振出スコトヲ得

此ノ複本ニハ其ノ証券ノ文言中ニ番号ヲ附スルコトヲ要ス之ヲ欠クトキハ各通ハ之ヲ各別ノ為替手形ト看做ス
一 通限ニテ振出ス旨ノ記載ナキ手形ノ所持人ハ自己ノ費用ヲ以テ複本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ所持人ハ自己ノ直接ノ裏書人ニ対シテ其ノ請求ヲ為シ其ノ裏書人ハ自己ノ裏書人ニ対シテ手續ヲ為スコトニ依リテ之ニ協力シ順次振出人ニ及ブベキモノトス各裏書人ハ新ナル複本ニ裏書ヲ再記スルコトヲ要ス

第六十五條 複本ノ一通ヲ支払ハ其ノ支払ガ他ノ複本ヲ無効ナラシムル旨ノ記載ナキト雖モ義務ヲ免レシム但シ支払人ハ引受ヲ為シタル各通ニシテ返還ヲ受ケザルモノニ付責任ヲ負フ

第六十六條 引受ノ為複本ノ一通ヲ送付シタル者ハ他ノ各通ニ此ノ一通ヲ保持スル者ノ名称ヲ記載スベシ其ノ者ハ他ノ一通ノ正当ナル所持人ニ対シテ之ヲ引渡スコトヲ要ス

- 一 引受ノ為送付シタル一通ヲ請求ヲ為スモ引渡サレザリシコト
- 二 他ノ一通ヲ以テ引受又ハ支払ヲ受クルコト能ハザリシコト

第二節 贖本

第六十七條 為替手形ノ所持人ハ其ノ贖本ヲ作ル權利ヲ有ス

贖本ニハ裏書其ノ他原本ニ掲ゲタル一切ノ事項ヲ正確ニ再記シ且其ノ末尾ヲ示スコトヲ要ス
贖本ニハ原本ト同一ノ方法ニ從ヒ且同一ノ効力ヲ以テ裏書又ハ保証ヲ為スコトヲ得

第六十八條 贖本ニハ原本ノ保持者ヲ表示スベシ保持者ハ贖本ノ正当ナル所持人ニ対シ其ノ原本ヲ引渡スコトヲ要ス

保持者ガ引渡ヲ拒ミタルトキハ所持人ハ拒絕証書ニ依リ原本ガ請求ヲ為スモ引渡サレザリシコトヲ証スルニ非ザレバ贖本ニ裏書又ハ保証ヲ為シタル者ニ対シ遡求權ヲ行フコトヲ得ズ
贖本作成前ニ為シタル最後ノ裏書ノ後ニ爾後裏書ハ贖本ニ為シタルモノノ効力ヲ有スノ文句其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ガ原本ニ存スルトキハ原本ニ為シタル其ノ後ノ裏書ハ之ヲ無効トス

第十章 変造

第六十九條 為替手形ノ文言ノ変造ノ場合ニ於テハ其ノ変造後ノ署名者ハ変造シタル文言ニ從ヒテ責任ヲ負ヒ変造前ノ署名者ハ原文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第十一章 時効

第七十條 引受人ニ対スル為替手形上ノ請求權ハ満期ノ日ヨリ三年ヲ以テ時効ニ罹ル

所持人ノ裏書人及振出人ニ対スル請求權ハ適法ノ時期ニ作ラシメタル拒絕証書ノ日附ヨリ、無費用償還文句アル場合ニ於テハ満期ノ日ヨリ一年ヲ以テ時効ニ罹ル
裏書人ノ他ノ裏書人及振出人ニ対スル請求權ハ其ノ裏書人ガ手形ノ受戻ヲ為シタル日又ハ其ノ者ガ訴ヲ受ケタル日ヨリ六月ヲ以テ時効ニ罹ル

第七十一條 時効ノ完成猶予又ハ更新ハ其ノ事由ガ生ジタル者ニ対シテノミ其ノ効力ヲ生ズ

第十二章 通則

第七十二條 満期方法法定ノ休日ニ当ル為替手形ハ之ニ次グ第一ノ取引日ニ至ル迄其ノ支払ヲ請求スルコトヲ得ズ又為替手形ニ関スル他ノ行為為殊ニ引受ノ為ノ呈示及拒絕証書ノ作成ハ取引日ニ於テノミ之ヲ為スコトヲ得

末日ヲ法定ノ休日トスル一定ノ期間内ニ前項ノ行為ヲ為スベキ場合ニ於テハ期間ハ其ノ満了ニ次グ第一ノ取引日迄之ヲ伸長ス期間中ノ休日ハ之ヲ期間ニ算入ス

第七十三條 法定又ハ約定ノ期間ニハ其ノ初日ヲ算入セズ

第七十四條 恩恵日ハ法律上ノモノタルト裁判上ノモノタルト問ハズ之ヲ認メズ

第二編 約束手形

第七十五條 約束手形ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 証券ノ文言中ニ其ノ証券ノ作成ニ用フル語ヲ以テ記載スル約束手形ナルコトヲ示ス文字
- 二 一定ノ金額ヲ支払フベキ旨ノ單純ナル約束
- 三 満期ノ表示
- 四 支払ヲ為スベキ地ノ表示
- 五 支払ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者ヲ指図スル者ノ名称
- 六 手形ヲ振出ス日及地ノ表示
- 七 手形ヲ振出ス者(振出人)ノ署名

第七十六條 前条ニ掲グル事項ノ何レカヲ欠ク証券ハ約束手形タル効力ヲ有セズ但シ次ノ數項ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

満期ノ記載ナキ約束手形ハ之ヲ一覽私ノモノト看做ス
振出地ハ特別ノ表示ナキ限り之ヲ支払地ニシテ且振出人ノ住所地タルモノト看做ス

第七十七條 左ノ事項ニ関スル為替手形ニ付テノ規定ハ約束手形ノ性質ニ反セザル限り之ヲ約束手形ニ準用ス

- 一 裏書（第三十一条乃至第二十条）
 - 二 満期（第三十三条乃至第三十七条）
 - 三 支払（第三十八条乃至第四十二条）
 - 四 支払拒絶ニ因ル遡求（第四十三条乃至第五十条、第五十二条乃至第五十四条）
 - 五 参加支払（第五十五条、第五十九条乃至第六十三条）
 - 六 賸本（第六十七条及第六十八条）
 - 七 変造（第六十九条）
 - 八 時効（第七十条及第七十一条）
 - 九 休日、期間ノ計算及恩恵日ノ禁止（第七十二条乃至第七十四条）
- 第三者方ニテ又ハ支払人ノ住所地ニ非ザル地ニ於テ支払ヲ為スベキ為替手形（第四条及第二十七条）、利息ノ約定（第五条）、支払金額ニ関スル記載ノ差異（第六条）、第七条ニ規定スル条件ノ下ニ為サレタル署名ノ効果、権限ナクシテ又ハ之ヲ超エテ為シタル者ノ署名ノ効果（第八条）及白地為替手形（第十条）ニ関スル規定モ亦之ヲ約束手形ニ準用ス
- 保証ニ関スル規定（第三十条乃至第三十二条）モ亦之ヲ約束手形ニ準用ス第三十一条末項ノ場合ニ於テ何人ノ為ニ保証ヲ為シタルカヲ表示セザルトキハ約束手形ノ振出人ノ為ニ之ヲ為シタルモノト看做ス

第七十八條 約束手形ノ振出人ハ為替手形ノ引受人ト同一ノ義務ヲ負フ

一覽後定期払ノ約束手形ハ第二十三条ニ規定スル期間内ニ振出人ノ一覽ノ為之ヲ呈示スルコトヲ要ス一覽後ノ期間ハ振出人ガ手形ニ一覽ノ旨ヲ記載シテ署名シタル日ヨリ進行ス振出人ガ日附アル一覽ノ旨ノ記載ヲ拒ミタルトキハ拒絶証書ニ依リテ之ヲ証スルコトヲ要ス（第二十五条）其ノ日附ハ一覽後ノ期間ノ初日トス

附則

第七十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十條 本法第四編第一章乃至第三章及商法施行法第二百二十四条乃至第二百六条ハ之ヲ削除ス但シ商法其ノ他ノ法令ノ規定ノ適用上之ニ依ルベキ場合ニ於テハ仍其ノ効力ヲ有ス

第八十一條 本法施行前ニ振出シタル為替手形及約束手形ニ付テハ仍従前ノ規定ニ依ル

第八十二條 本法ニ於テ署名トアルハ記名捺印ヲ含ム

第八十三條 第三十八条第二項（第七十七条第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ手形交換所ハ法務大臣之ヲ指定ス

第八十四條 拒絶証書ノ作成ニ関スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十五條 為替手形又ハ約束手形ヨリ生ジタル權利ガ手續ノ欠缺又ハ時効ニ因リテ消滅シタルトキト雖モ所持人ハ振出人、引受人又ハ裏書人ニ対シ其ノ受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ノ請求ヲ為スコトヲ得

第八十六條 裏書人ノ他ノ裏書人及振出人ニ対スル為替手形上及約束手形上ノ請求權ノ消滅時効ハ其ノ者ガ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ前者ニ対シ訴訟告知ヲ為シタルトキハ訴訟告知終了スル（確定判決又ハ確定判決ト同一ノ効力ヲ有スルモノニ依リテ其ノ訴ニ係ル權利ガ確定セズシテ訴訟告知終了シタル場合ニ在リテハ其ノ終了ノ時ヨリ六月ガ経過スル）迄ノ間ハ完成セズ

前項ノ場合ニ於テ確定判決又ハ確定判決ト同一ノ効力ヲ有スルモノニ依リテ其ノ訴ニ係ル權利ガ確定シタルトキハ時効ハ訴訟ノ終了ノ時ヨリ更ニ其ノ進行ヲ始ム

第八十七條 本法ニ於テ休日トハ祭日、祝日、日曜日其ノ他ノ一般ノ休日及政令ヲ以テ定ムル日ヲ謂フ

第八十八條 為替手形及約束手形ニ依リ義務ヲ負フ者ノ行為能力ハ其ノ本国法ニ依リ之ヲ定ム其ノ國ノ法ガ他國ノ法ニ依ルコトヲ定ムルトキハ其ノ他國ノ法ヲ適用ス

前項ニ掲グル法ニ依リ行為能力ヲ有セザル者ト雖モ他ノ國ノ領域ニ於テ署名ヲ為シ其ノ國ノ法ニ依レバ行為能力ヲ有スベキトキハ責任ヲ負フ

第八十九條 為替手形上及約束手形上ノ行為ノ方式ハ署名ヲ為シタル地ノ屬スル國ノ法ニ依リ之ヲ定ム

為替手形上及約束手形上ノ行為ガ前項ノ規定ニ依リ有効ナラザル場合ト雖モ後ノ行為ヲ為シタル地ノ屬スル國ノ法ニ依レバ適式ナルトキハ後ノ行為ハ前ノ行為ガ不適式ナルコトニ因リ其ノ効力ヲ妨ゲラルコトナシ

第九十條 日本人ガ外國ニ於テシタル為替手形上及約束手形上ノ行為ハ其ノ行為ガ日本法ニ規定スル方式ニ適合スル限り他ノ日本人ニ対シ其ノ効力ヲ有ス

前項ニ掲グル者ヲ除キ為替手形又ハ約束手形ニ依リ債務ヲ負フ者ノ署名ヨリ生ジタル効力ハ其ノ署名ヲ為シタル地ノ屬スル國ノ法ニ依リ之ヲ定ム

第九十一條 為替手形ノ引受人及約束手形ノ振出人ノ義務ノ効力ハ其ノ証券ノ支払地ノ屬スル國ノ法ニ依リ之ヲ定ム

前項ニ掲グル者ヲ除キ為替手形又ハ約束手形ニ依リ債務ヲ負フ者ノ署名ヨリ生ジタル効力ハ其ノ署名ヲ為シタル地ノ屬スル國ノ法ニ依リ之ヲ定ム

第九十二條 為替手形ノ所持人ガ証券ノ振出ノ原因タル債權ヲ取得スルヤ否ヤハ証券ノ振出地ノ屬スル國ノ法ニ依リ之ヲ定ム

前項ノ規定ハ約束手形ノ支払ニ之ヲ準用ス

第九十三條 拒絶証書ノ方式及作成期間其ノ他為替手形上及約束手形上ノ權利ノ行使又ハ保存ニ必要ナル行為ノ方式ハ拒絶証書ヲ作ルベキ地又ハ其ノ行為ヲ為スベキ地ノ屬スル國ノ法ニ依リ之ヲ定ム

第九十四條 為替手形又ハ約束手形ノ喪失又ハ盗難ノ場合ニ為スベキ手續ハ支払地ノ屬スル國ノ法ニ依リ之ヲ定ム

附則（昭和二年二月二十七日法律第一九五号）抄

第十七條 この法律は、公布の後六十日を経過した日から、これを施行する。

附則（昭和二十七年七月三十一日法律第二六八号）抄

1 この法律は、昭和二十七年八月一日から施行する。

附則（昭和五六年六月一日法律第六一号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、銀行法（昭和五十六年法律第五十九号）の施行の日から施行する。

附則（平成十一年二月八日法律第一五一号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、平成十二年四月一日から施行する。

（経過措置）

第三条 民法の一部を改正する法律（平成十一年法律第四百十九号）附則第三条第三項の規定により従前の例によることとされる準禁治産者及びその保佐人に関するこの法律による改正規定の適用については、次に掲げる改正規定を除き、なお従前の例による。

一から二十五まで 略

附則（平成十四年七月三十一日法律第一〇〇号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、民間事業者による信書の送達に関する法律（平成十四年法律第九十九号）の施行の日から施行する。

（その他の経過措置の政令への委任）

第三条 前条に定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

附則（平成十六年六月二日法律第七六号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、破産法（平成十六年法律第七十五号。次条第八項並びに附則第三条第八項、第五条第八項、第十六項及び第二十一項、第八条第三項並びに第十三条において「新破産法」という。）の施行の日から施行する。

（政令への委任）

第十四条 附則第二条から前条までに規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

附則（平成十六年二月一日法律第一四七号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附則（平成十八年六月二日法律第七八号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附則（平成二十九年六月二日法律第四五号）

この法律は、民法改正法の施行の日から施行する。ただし、第百三条の二、第百三条の三、第二百六十七條の二、第二百六十七條の三及び第三百六十二條の規定は、公布の日から施行する。

附則（令和五年六月一四日法律第五三三号）抄

この法律は、公布の日から起算して五年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 第三十二章の規定及び第三百八十八條の規定 公布の日